

M.N 様

愛用ミシン:ジャノメ

## ミシンと私

年はまっていない。あれっという間に 90 才、自分でおどろいている。本人気はしっかりしているつもりでも、体が追い付かない。これが自然なりと、今日は変わりなくも、明日はわからない。思うにこの 90 年間、色々な人に守られて、今殆どの事は忘れたが、忘れ得ぬことも多々ある。

なぜか私の年代は戦争が多かった。「負けられません、勝つまでは」と、私がふと口ずさむと孫が「それは何？」と聞いてくる。これが自然。

戦後の日本で私は、15、6 才になっていたと思う。街には色々な物があふれ、中でも欲しかったのはミシンだったのです。ミシンといっても農家の家の母などには関係なし、父も同じく。あの頃ミシンの値は確かお米一俵とミシン 1 台だったと思います。そんな時、父方のいとこで私と同年の子がミシンを買った。我が家は子子沢山、ミシンなんて、とてもとてもだったのでしょう。いとこの家はお金持ちなので、仕方ありません。

そして私は、いとこの家へのミシンを借りに通い始めました。片道どのくらいだったか…ミシンを借りて食事を頂き、帰って来たのです。あの頃もう何十年なれど、ミシンを持っていた人は村では 2 人くらいだったと思います。

その後、父にミシンを 1 台買っていただき、また嫁ぐ時に 1 台買ってもらい、随分役立たせていただきました。嫁いだ時、買っていただいたミシンは子育てに随分助かったことを、思い出します。たかがミシン、されどミシン、つくづく思い出します。

**JANOME**  
**100**  
YEARS  
since 1921